

受講講義：Queer Culture and Life in Japan

(1) 講義内容・進め方・負担などについての感想

日本のクィア文化に関するいくつかのテーマを扱った。イトータリーやダムタイプ、宝塚や美輪明宏などを鑑賞し、HIV や BL 漫画の専門家から直接話を伺う機会がある。個人的にはそのどれもが、この授業を受けていなければ出会うことがなかったのではないかと感じるものであった。日本ではクィア文化に、例えば当事者と直接関わることを通して触れ合うことがまだ少ないように思われ、実際、前まで私はクィア文化をどこか他人事のようにしか考えることができず、この講義に申しこんだときの面接でとんちんかんな受け答えをしたのを覚えている。しかしクィア文化を知っていくにつれ、今までなぜ自分のセクシャリティに対して疑問を抱かなかっただろうと、逆に疑問を持った。そんなふうに、クィア文化を学ぶことよりも、自分が 20 年間もの間信じて疑わなかった価値観について考えさせられることの方が多かった。それらのほとんどにまだ答えを出せておらず長く考え続けなければならない問題ではあるが、学生というこの時期にそのきっかけがあったことに意味があったのかもしないと感じている。

予習としてリーディングが毎週 40 ページ程課される。洋書の 1 ページは、和書のそれとはレベルが違い、読むのにかなりの時間を要する。しかし事前の合格者説明会で聞いていたほど大変ではなく、私は毎日こつこつ読み続けることができたのでストレスにはならなかった。ただし直前に詰める派の方が多い印象なので自分に合ったペースを掴めれば良いと思う。授業もリーディングも面白く、先生も学生もとにかく良い人なので、全然苦にはならなかった。

また、レスポンスペーパーを出す時は、提出する前に一度先生にフォーマットを確認してもらうべきだと学んだ。

(2) KCJS もしくは SJC 学生との交流についての感想

とにかくやさしい。話しかければ快く応じてくれるし、なんならたくさん話しかけてくれる。授業外の付き合いに誘ってくれることも多く、一緒にご飯にいたり、学園祭にいたりする中で非常に仲良くなれた。個人的すぎるが、「マクドナルド」をなんと略すのかを聞いた時、「マック」でも「マクド」でもなく「ドナルド」と言っているようにしか聞こえなかったのがつぼにはまって面白かった。聞き間違いなのかほんとにそう呼んでいるのかはよくわからない。

ただし最終日に彼らのプレゼンを聞いたときにはその頭の良さに圧倒された。京大で聞けるようなプレゼンとは格が違い、もちろんディスカッションの端々で感じることはあったが、最後の最後で自分との厳然たる差を実感せずにはいられなかった。完成度の高さや発想に見習うべき点を多く学べた一方、そもそも十分な準備すらしないままプレゼンに臨んでしまった自分を恥じた。

最後に、授業とも関連するが、アメリカのクィア文化にたいする態度が、日本のそれとは全くと考えるほど違うのに驚かされた。彼らの考え方を聞くことはまさにカルチャー・ショックであり、これが 20 年間信じて疑わなかった自分の価値観を自省する大きなきっかけをもたらしたことはいうまでもない。雑談ばかりをしていてこういう少し踏み込んだ話をするのが少なかったのが少し残念に思われる。

(法学部 1 回生)

受講講義：Queer Culture and Life in Japan

(1) 講義内容・進め方・負担などについての感想

私の受講した授業は、基本的に、毎回課された予習を前提に講義が行われ、その後受講生間で意見交換を行うものであった。毎回の予習は、指定された20ページ前後の英語の論文を2本読んでくるといものが多かった。あまり長い英文を読んだことのなかった私にとって、この課題は非常に重く、毎週かなりの時間をかけていた。したがって、英語力にもよるが、あまり時間がない人には受講を薦めることができない。しかし、毎週コンスタントにアカデミックな英文を読むという経験は良い訓練になったので、個人的には受講してよかったと思っている。講義の形式は多岐にわたり、先生による講義のほか、映画やパフォーマンスの鑑賞、ゲストスピーカーによる講義などがあった。講義は英語だが、先生とゲストスピーカーが日本人であったので、講義の内容自体の聞き取りにはあまり苦労しなかった。一方で、意見交換においては、スタンフォード生の発言内容の聞き取りに苦労した。また、日本の社会や文化について、バックグラウンドの異なる人にもわかるように英語で自分の意見を伝えるのは非常に難しかった。しかし、先生も受講生も私の拙い英語に熱心に耳を傾けてくれた。この講義を受講し始めたときは、失敗したらどうしようと考えて英語を話すことを躊躇することが多かった。しかし、次第に、このクラスでは失敗してもいいのだと気が付き、いつか失敗するならここで失敗してしまおうと、ためらわずに意見を発表することができるようになった。この講義を通じて、英語力自体が上がったかどうかはわからないが、少なくとも、英語でコミュニケーションをとる時に必要な自信がついたという点で成長できたと感じている。

(2) KCJS もしくは SJC 学生との交流についての感想

スタンフォード生はみな、私たち日本人学生と仲良くなろうとフレンドリーに話しかけてくれ、こちらから働きかけることで、授業外でも交流することができた。具体的には、授業やフィールドトリップのあとにご飯を食べに行ったり、京大と同志社大の学祭を回ったりした。スタンフォード生と日本の暮らしを一緒に体験することで、日本の文化を客観視することができて面白かった。

(農学部 1 回生)